

11月5日からエガオで現代国際巨匠絵画展

ミゲールなど200点公開

沼ノ端保育園開園40周年チャリティー



PRポスターと遠藤事務局長

現代国際巨匠絵画展が11月5～7日、茗小牧駅前アラザe-gao(エガオ)4階ギャラリーで開催される。沼ノ端福祉会創立40周年、沼ノ端保育園開園40周年を記念するチャリティー事業で、スペインの画家ミゲールや巨匠ヒカソなどの作品200点が公開される。入場無料。

沼ノ端福祉会沼ノ端保育園チャリティー絵画展実行委員会主催。メインはミゲールの絵画で、紅葉した木を描いた「赤の力」や夕暮れの風景「池」など80点が並び、10代から数々の絵画展で入賞し、詩情豊かな作品は世界中で愛されている。

このほか、人間2人を独特の感覚で表現したピカソのリトグラフ「ピカソと人間喜劇区」、春の山の景色をモチーフにした東山魁夷の木版画「春静」をはじめ、ローランサン、ユトリロ、シャガール、平山郁夫、いわさきちひろの作品を陳列する。

沼ノ端保育園は1973年に開園した。地域の要望で76年、防衛省の防音対策工事で現在地に移転新築。水遊びや泥んこ遊びなどを取り入れてきた。

施設の老朽化で園舎改善を目指しており、通常保育のほか、病児病後児保育や発達支援、子育て支援に関わる事業の実施を検討している。

絵画展での益金の一部は、改築資金と東日本大震災の義援金に役立てる。

幼児も鑑賞できることから、絵画展実行委の遠藤明代事務局長は「法人と園の歴史と未来を語り合うほか、子供たちが質

の高い作品に接して感性を磨く機会になれば」と話している。

また、沼ノ端保育園開園40周年記念の一環で23日午前10時から、2001年度在園児のタイムカプセル開封式を同園で行う。